

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0601004

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	7	介護保険事業会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	7	高齢者支援の充実	事業優先度		B	
単位施策	2	生活支援の充実	政策事務分類	4	法定自治事務	
事業名	地域包括支援センター運営事業②		見直し年度			
事業期間	平成20年度～平成24年度		担当課	6	地域包括支援センター	
事業主体	雄武町		関係課	5	保健福祉課	
事業指標	事業実施回数				#N/A	
事業目標	事業実施回数 年間24回		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加	2	介護予防、自立支援に向けた努力義務	関係例規・法令名	2	介護保険法	
住民協働			関係個別計画名		介護保険事業計画	

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容		
計画 内容	高齢者支援の充実	高齢者の総合相談、権利擁護、包括的・継続的マネジメント、介護予防事業	高齢者の総合相談、権利擁護、包括的・継続的マネジメント、介護予防事業	高齢者の総合相談、権利擁護、包括的・継続的マネジメント、介護予防事業	高齢者の総合相談、権利擁護、包括的・継続的マネジメント、介護予防事業	高齢者の総合相談、権利擁護、包括的・継続的マネジメント、介護予防事業		
	高齢者支援の総合相談、権利擁護、包括的・継続的マネジメント、介護予防事業等を実施する（交付金対象事業）							
計画 事業 費	事業費(千円)	25,399	4,827	5,000	5,000	5,230		
	財源 内訳	国庫支出金	10,106	1,932	2,000	2,000	2,064	
		道支出金	5,051	965	1,000	1,000	1,031	
		地方債	0					
		その他	5,052	965	1,000	1,000	1,032	
		一般財源	5,190	965	1,000	1,000	1,103	
実績 事業 費	事業費(千円)	25,297	4,727	4,904	4,956	5,515		
	財源 内訳	国庫支出金		1,890	1,962	1,982	2,206	
		道支出金		945	980	991	1,103	
		地方債						
		その他		945	980	991	1,103	
		一般財源		947	982	992	1,103	
関連 事項	(特定財源の詳細等) 国庫支出金 40% 道支出金 20% 繰入金(1号保険料)20% 市町村 20%	【評価・実績】	(実施内容等) 相談件数 949件/年 介護(支援)の給付を受けない方の相談件数は目標の約倍の件数となった。	(実施内容等) 事業実施回数 27回/年 定例の地域ケア会議の継続と合わせて権利擁護事業、認知症サポーター養成講座を開催することができた	(実施内容等) 事業実施回数 30回/年 定例ケア会議開催継続、認知症サポーター養成講座の開催など事業を行う事ができた	(実施内容等) 事業実施回数 31回/年 定例会議に加え、包括的ケアマネジメント事業として老健、特養等との勉強会を3回開催する等、地域支援を行う事ができた		
			※前年度評価結果	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持		
			※前年度評価結果	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持		
	第4期総合計画関連 (継続無し)		年度目標値	相談件数500件	事業実施回数 24回/年	事業実施回数 24回/年	事業実施回数 24回/年	事業実施回数 24回/年
			年度達成率	98%	98%	99%	105%	97%
	全体達成率	19%	38%	57%	79%	100%		
	事業進捗状況	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆		

事業名	地域包括支援センター運営事業②	評価者 管理職 職氏名	雄武町地域包括支援センター所長	山崎佳之
		評価者 作成者 職氏名	介護予防係長	河原真由美

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業実施回数	
【抱える課題やニーズは】	加齢や障がいから生活に支障が出る恐れがある	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	介護予防や生活の質の向上を目指した関係機関調整、町づくりを目指す	① 回数で単純に評価することはできないが、事業を通じ生活の質の向上に資する働きかけの一つとする。	目標年度	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	加齢や障がいから生活への支障が生じても住み慣れた場でその人らしく生活が継続できる		目標値	平成24年度
			実績値	24回
			達成度	33回
			達成度	137.5%
		②	目標年度	年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	権利擁護・虐待予防事業	高齢者の人権、虐待予防等について講演会、勉強会を実施。雄武町消費者被害防止ネットワーク会員として例会出席。日常相談業務での権利擁護対応可能となるよう外部研修受講等を実施している。		
	包括的・継続的マネジメント事業	月2回定例会議に加え、介護老人保健施設、介護老人福祉施設職員との学習会開催や日常的な連携強化。介護サービス事業所と個別計画作成等サービスの質の向上に向けた学習会や日常の助言実施。民生児童委員を相談協力員として委嘱し地域の見守り体制構築を図っている。		
	認知症サポーター養成講座等	認知症高齢者の見守り事業として、認知症サポーター養成講座の実施、社協ふれあい広場での認知症向け寸劇実演、広報おうむ等のへの記事掲載等正しい認知症理解に向けた啓蒙普及実施している。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	介護保険法に基づき市町村で事業展開が義務付けられている。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	各事業を通じ、介護保険事業所、町民等へ知識、意識の向上が図れていると思われる。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業内容の特性上、費用対効果の視点は難しいが、有効で経費がかからない方法で講師派遣を検討する等節減を意識した事業を行っている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

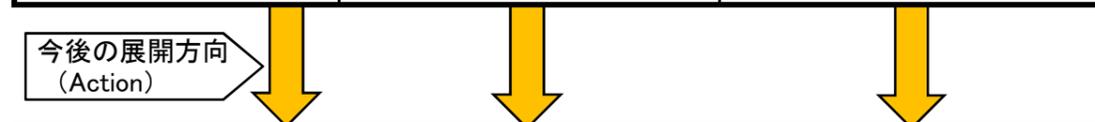
公平	判断の理由	全町民にとって介護予防は必要であることから公平性は保たれていると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
市町村として高齢者や障害者権利擁護、関係機関との連絡調整等は生活支援のために必要な支援であると思われる。		



継続/現状維持		
生活の質向上のために、繰り返し関係機関調整や町民への周知、啓蒙等を継続することが必要である。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止